

自分の考えを持ち、表現する力を育てる「読むこと」の授業〈第2年次〉
～思考の場としての「書く」活動を位置付けた単元構想の工夫～

福島県教育センター 長期研究員 車田 敦子

1 研究の趣旨

小学校学習指導要領国語において、「PISA型」読解力を踏まえ、「読むこと」の指導では、書かれている内容を理解するだけでなく、自分なりの考えを持ち、それを表現する力の育成が求められている。しかし、私自身の授業を振り返ると、例えば、文章を読み取った後に、自分の考えを書く言語活動を取り入れても、書けない子どもたちの姿があった。それは、子どもたちの中で文章を読むことと言語活動の接点が明らかではなかったためである。一方教師側では、読むことと書くことを通してどんなものかの見方や考え方、表し方を育てるのかという視点が足りなかったため、子どもたちにも何のために読み、書くのかを意識させることができなかったのだと考える。そこで、読解と表現をつなぎ、考える力を育成していくための書く活動を効果的に位置付けた単元構想の在り方を探っていきたいと考えた。

一年次の研究の成果としては、単元を通して付けたい力を明確にし、その力とつながる言語活動を位置付けることで、目的意識を持ちながら書く活動へと向かっていくことができた。しかし、読みの深まりを実感したり、読んだことを生かして自分の考えを書いたりするまでに結びつかないことが多かった。

そこで、二年次においては、「読むこと」の学習において、思考力育成という視点から「書くこと」を位置付けた指導の在り方を追求していきたいと考えた。子どもたちが読んで自分の考えを持ち、表現するまでには、「文章を読んで課題を持つ段階」、「読みを深め自分の考えをつくり上げていく段階」、そして「読み取ったことを生かしながら自分の考えを表現する段階」が考えられる。それぞれの段階において、どんな思考力を育成することができるかを明らかにしながら書く活動を単元に位置付けていくことで、子どもたちに確かな読む力を身に付けさせたいと考えた。

以上の理由から、以下に述べるような仮説を設定し研究主題に迫った。

「読むこと」領域の指導において、以下の視点（「2（1）研究の概要」参照）で単元を構想すれば、読み取ったことを基に、自分の考えを持ち、表現することができるようになるであろう。

2 研究の概要

(1) 研究協力校において下記の二つの視点に基づいた授業を行い、その効果を検証する。

【視点1】 目的意識を持って読むことができる言語活動の工夫

【視点2】 自分の考えをつくり上げていくための書く活動の位置付け ・思考ツールの活用

(2) 授業の実際（研究協力校 福島市立鎌田小学校）

① 一年次 単元名 物語の構成を意識して「物語のとびら」を作ろう（第5学年）

② 二年次 単元名 わたしの考える「持続可能な社会」をリーフレットでしようかいしよう！（第6学年）

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 読むことの単元の、それぞれの段階において効果的に書く活動を位置付けることにより、書くことで考え、読みが深まることを意識させることができた。

② 書いたものを基に友達と交流することで、新たな考えに気付いたり、その後深まった考えを書くことで、視覚的に自分自身で変容を感じたりさせることができた。

(2) 今後の課題

① 思考ツールの活用が、理解が深まったり、自分の考えがまとまったりすることに有効であると感じさせることができたが、目的や課題解決に向けて子ども自身が、適切なツールを選択し、主体的に活用するまでには至らなかった。

② 高学年のみの検証であり、読むことにおける身に付けさせたい思考力を系統的に明確にする必要がある。